

巻頭言

メディアセンター長

立教大学理学部 教授 平山孝人

私は 2011 年 4 月から 4 年間メディアセンター長を務めました。その間の「思い出話」を書きたいと思います。

私がセンター長になった前月に 3.11 東北大震災がありました。幸いなことに立教大学では大きな被害はありませんでしたが、震災当日、大学は 3 千人を超える帰宅難民を受け入れ、彼らのために開放した教室のスクリーンに USTREAM でのニュース映像を流し、また学内 Wifi を一般の方たちに開放するという対応をしました。これらの対応が可能となったのは、幸運にもネットワーク回線を始めとした大学のインフラが止まらなかったからでした。しかし、その後大学では卒業式・入学式を始めとした様々な学内行事が中止となり、新学期の 4 月が休講になりました。1 ヶ月間休講になってしまったことにより授業回数の確保が問題となり、主にホームページ上に課題を掲載し、CHORUS を用いて課題を提出する方法で対応しました。V-Campus の本来の意味である「もう一つのキャンパス (Virtual Campus)」の機能が発揮されたとも言えるでしょうが、このような大規模な災害は大学としても初めての経験であり、メディアセンターが関わる情報基盤の構築・運用業務の今後を考える上で大きな影響を与えました。

2012 年度から運用を開始した V-Campus 5th では、震災対応での経験を元に、災害に強いシステムを柱の一つとして様々な増強がなされました。大規模災害が起きた場合でもネットワークが切断される可能性を低くするために、池袋キャンパス・新座キャンパス・データセンター間のネットワーク回線を全て二重化しました。また、万が一長期間にわたって大学が休校した場合に備えて、「学外にいながら学習できる」環境も組み込みました。具体的には、授業支援システム (LMS) に V-Campus 3rd で運用を開始した CHORUS に加えて、世界的に最もよく使われている Blackboard を導入したこと、様々なシステムを近年使用者が劇的に増加しているスマートフォンに対応させたこと、また学外から学内ネットワークへの安全なアクセスを可能にする Virtual Private Network (VPN) 機能を増強したことなどです。V-Campus 5th では上記以外にも、Microsoft 社との包括ライセンス契約、休講・教室変更の通知機能を持ったスマートフォンアプリの開発、貸し出しノートパソコンの増強など、ユーザーが直接目に見える形での利便性の向上も図られています。

2013 年度からは、2016 年度から始まる学士課程統合カリキュラムにもメディアセンターとして深く関わることになりました。この新カリキュラムでは、大学 4 年間における学生

の成長に合わせたカリキュラムが構築され、特に新入生が大学にうまく着地できることを目的とした「導入期」は、非常に重要な時期と位置づけられています。この「導入期」において、学生はスタディスキル・アカデミックスキルの習得が必須であり、このために大学として今までの資産を活用するだけでなく、学修用コンテンツやサービスを新たに開発する必要に迫られています。メディアセンターとしても、今までの主たる業務であった「情報基盤の構築と安定した運用」だけでなく、教育にも強く関与することが求められました。また、2014年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」にも関連して、大学4年間とその後に続く「キャリア」を学生に意識してもらうために、新しいe-ポートフォリオシステムの構築も現在進められており、メディアセンターとしても深く関わっています。

今後のメディアセンターがどのような使命を持つべきなのか、どの方向に進んで行くべきなのかについては私もよくわかりませんが、数年前までの、いわゆる「コンピューターセンター」としての情報基盤の安定した運用という仕事だけではないことは明らかです。今後は大学としての一番の使命である学生への教育に今まで以上に深く関与し、学生・教員両方のための効率的な学修システムの構築により資源を注入する必要があるでしょう。また、近年ますます高度になってきている、悪意を持ったシステムへの侵入者や情報流出をもたらすメールなどに対する対策も重要です。これらに対抗するためには、このような脅威に対して強いシステムを構築するだけでなく、ユーザー（学生・教職員）への「分かりやすい言葉」での情報提供とリテラシー教育も非常に重要でしょう。

メディアセンターの仕事というのは、「冒険」がしにくい仕事です。主たるユーザーである学生のために、様々なことを経験できる新しい環境を常に提供し続けて欲しいと思っていますが、情報に関する技術は日進月歩であり、情報基盤を新しいものにしていくには当然リスクが伴います。そのようなリスクを最小限にするため、業者からの常駐者も含めたメディアセンター職員が日々情報を収集し勉強を続けている姿を目にしてきました。今後もこの姿勢を保ち続けて欲しいと強く希望しています。またこれは当然立教大学だけの問題ではなく、他の大学でも頭を悩ませていることです。そのような他大学の状況を知り、また情報を共有するためにも、大学情報サミット、大学ICT推進協議会、私立大学情報教育協会などを利用し情報を収集し、また（立教大学メディアセンターの宣伝も含めて）積極的に情報を発信して欲しいと思います。

メディアセンターが管理運用している立教大学の情報基盤がより使いやすいものになるためには、ユーザーからの声が非常に大切です。ユーザーからの要望や使いにくい部分などは、メディアセンターの中にいるとなかなか聞こえてこないものです。今後は私も一人

のユーザーとして、このような声をメディアセンターに届けたいと考えています。我々がメディアセンターに対して様々な声を上げることは、結局我々自身の利便性が向上する結果に繋がります。今後のメディアセンターの更なる発展にユーザー全員で協力して寄与できればと強く望んでいます。

以上